

特別支援学校においては、科学技術を活用し、生徒が実社会での課題解決に向けて、研究機関等と連携しながら探究活動に取り組む機会を設定し、生徒の言語能力、情報活用能力、問題発見・課題解決能力を育成することを目的とし、職業学科を設置する高等部において普通科を設置する6校を、推進モデル校と推進校として指定し、12月21日(木)にオンラインで成果発表会を開催しました。

成果発表会では、各校の発表に対してICT機器を活用しながら、生徒同士が感想を交流し合う中、審査員による審査を行いました。

審査の結果、上位2校は、令和6年2月1日(木)に北海道大学を会場として開催した「探究チャレンジ・ジャパン」に参加しました。

特別支援学校成果発表会

参加校・発表タイトル

釧路鶴野支援学校	釧路湿原を題材にした探究活動
中札内高等養護学校	ゼロカーボンを知ろう!
紋別高等養護学校	【森林】についての探究学習
函館高等支援学校	SDGsについて
札幌あいの里高等支援学校	学校貢献プロジェクト ～堆肥作りと再生野菜の栽培・活用～
旭川高等支援学校	雪冷蔵・雪冷房にチャレンジ!! ～雪を夏まで残し活用する研究～

生徒の感想から

- YouTubeで自然保護の取り組みについて発信することが良い取組だなと思いました。
- オホーツク海で有名な流水が今、無くなりつつあり、観光資源が無くなっていることを理解しました。
- 森林認証制度(FSC)について深くそしてわかりやすく説明したことが良いと思いました。自分たちの住んでいる場所も森林認証制度の木材で、家を建てたりしていきたいと思いました。
- 栄養教諭さんと協力して給食の残食量をグラフにしたり近隣の企業さんに足を運びSDGsの取組を聞きに行くのが素晴らしかった。美化活動もよかったです。
- 雪を保存して夏に有効活用する取り組みが素晴らしかったです。スライドや動画の編集がとても凝っていてよいと思います。

雪冷房の実験の結果

雪冷蔵は2つの換気扇
を使いました。

メリット、デメリット

雪の冷たい空気を
とても感じやすい!!

教室の広さに対し
ては物足りない!!

初めに作った
1号機



学校の状況

栄養教諭へのインタビューの結果

給食を作る時に
出た生ごみ
一日あたり **6kg**

↓

一カ月では **132kg**

令和5年6月の平均残食量



米55kg	3.5kg (10%)
米55kg	10kg (18%)

● 残食量 ● 食べ残量



審査結果 「探究チャレンジ・ジャパン」出場校

旭川高等支援学校

札幌あいの里高等支援学校